

### 第3章 関連文化財群の保存・活用に関する基本的な方向

#### 1 関連文化財群の保存・活用の意義

関連文化財群は、有形・無形の文化財を歴史的・地域的な関連性などに基づいて、相互に関連のある一定のまとまりとして捉え、地域の歴史や文化を語る重要な資産として、総合的に保存・活用を行っていくものである。

また、尾道市において関連文化財群を設定する意義として、「文化財の“個”の価値・魅力とともに、“群”としての価値・魅力を引き出す」ことになり、そのことは「尾道市の歴史文化をより大切にし、生かし、理解を高めるとともに、広く情報発信し、体験学習や交流・観光などを進める」ことにつながる。

さらに、個別的な関連文化財群の保存・活用に関わる意義については、以下のようになる。

表 3-1 個別的な関連文化財群の保存・活用の意義

関連文化財群の名称（テーマ）	意義・役割
港町の多彩な文化と景観	それぞれに特色のある数多くの港町の歴史と文化及びそこに見いだされる港町の景観を再認識し、文化財の把握と保存・活用を進めるとともに、それらのつながりを見いだし、守り、生かしていく。
水軍や海運の海道文化と遺産	海を通じて培われてきた文化財や現在へとつながる海に関わる歴史を再認識し、文化財の把握と保存・活用を進める。
港町や農山漁村の集落と民俗芸能	地域に脈々と受け継がれてきた民俗芸能を再認識し、それらの把握と保存・活用・継承を進める。
街道と宿場町 交易・交流の遺産	主要な2つの街道（西国街道、出雲街道）の存在と交わり、海路との結節、そしてこうした交通条件を基盤とした交易・交流とそれに関わる文化を再認識し、文化財の把握と保存・活用を進める。
地域に息づく近代化遺産	尾道の産業と暮らしを支えた近代化遺産を再認識し、それらの把握と保存・活用を進める。
尾道の生活文化	現在に息づく伝統的な産業や生活文化を再認識し、その継承・発展を図るとともに、それらのつながりを見いだし、守り、生かし、暮らしの中により浸透させ、訪れた人にもアピールできる。
時のミュージアム・尾道	様々な時代の文化財が街並みなどとして重層していることを再認識し、時間軸を意識した文化財の保存・活用を進めるとともに、そうした特色と魅力をより引き出すことになる。

## 2 関連文化財群の保存・活用に関する基本的な方向

関連文化財群における文化財の保存・活用に関する基本的な方向を、各関連文化財群に共通する内容として、以下のように設定する。

### ① 関連文化財群のテーマに関わる文化財の調査・研究

それぞれの関連文化財群のテーマをより深めるため、また、新たな構成要素を見つけるために、継続的に調査・研究を行う。

### ② つながりを持った文化財の保存・活用

関連文化財群における文化財の保存・活用を、従来のように個別に行うだけでなく、群としての価値と特色を守り、生かす視点も持ちながら、指定・登録の検討や周辺環境を含めた景観の保全・形成、案内・説明への対応、つながりを持った活用方策の検討（下記参照）などに取り組む。

また、全体テーマである“時のミュージアム・尾道”を具体化していくため、市民等の協力・参加を得ながら、推進体制（態勢）を確立し、持続的・発展的に取り組む。

### ③ 文化財等の周遊ネットワークづくり

それぞれの関連文化財群をめぐるコースづくりに取り組むとともに、動線やサインの整備・充実に努める。

また、コースづくりにおいては、文化施設や観光施設等を組み込むことも検討する。

### ④ 民俗芸能やイベントなどのネットワーク的な開催や情報発信の検討

関連文化財群に関わる民俗芸能やイベントなどをめぐって体験できるようにするため、関係団体等の連携や情報発信を図る。

### ⑤ 関連文化財群を支える体制づくりと情報の受発信

市民等の協力と参加を得ながら、関連文化財群の保存・活用を進めていく体制づくりを検討する。

また、関連文化財群の意義や魅力、それを構成する文化財や文化財をめぐるコースなどについての情報を分かりやすく整理し、情報を提供・発信するとともに、問い合わせ等に的確に対応できる態勢の確保に努める。

### ⑥ 公開・活用施設の整備・充実とネットワークづくり

関連文化財群に関する展示や情報提供などを取り入れながら、既存の文化施設など公開・活用施設の整備・充実とネットワークづくりに努める。

### ⑦ テーマ等を通じた広域的な連携の検討

関連文化財群のテーマ等を通じて、広域的な文化財の保存・活用などに関する連携を検討する。